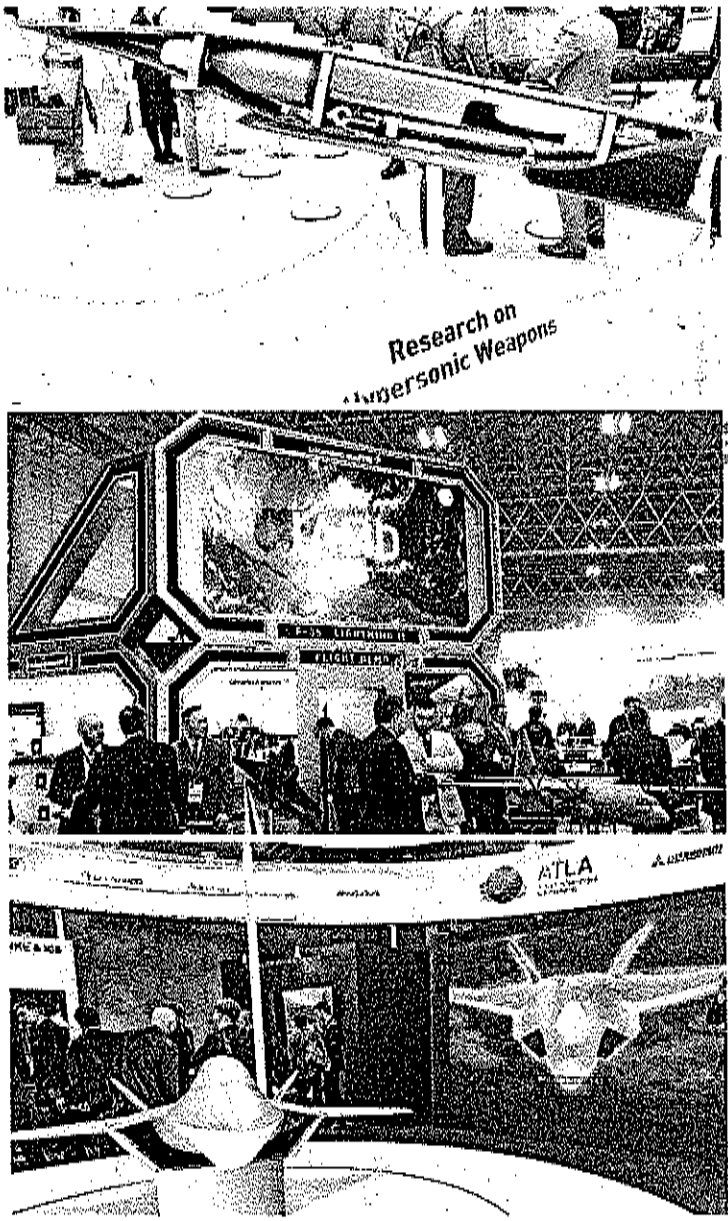
3/18 王 旗

戦争する力 誇示

「5年間43兆円」に群がる軍需企業

千葉で武器見本市



㊤防衛装備庁が開発している極超音速兵器の模型。青い部分が弾頭㊥米ロッキード・マーチン社の展示。IAMD（統合防空ミサイル防衛）のPR動画を流しています㊦日英伊3カ国が共同開発する次世代戦闘機の模型。高度な情報処理能力を有する「第6世代」とされます＝16、17日、千葉市・幕張メッセ

千葉市の幕張メッセで15～17日に開催された国際武器見本市「DSEI Japan 2023」には「5年間43兆円」という岸田政権の大軍拡計画に国内外の軍需企業が群がり、日本側も武器輸出をアピールしました。

際立ったのが、敵基地攻撃能力となる長射程ミサイルの展示です。世界最大手の米ロッキード・マーチンは日本に売却したJASSM（F15A戦闘機に搭載）などを展示。防空・ミサイル防衛と敵基地攻撃を一体化させた「統合防空ミサイル防衛」（IAMD）の宣伝動画を流し、日本の参加を促しました。ノルウェーのKDAも、日本に売却したJSM（F35Aに搭載）を展示していました。

日本の防衛装備庁も開発中の極超音速兵器の模型を展示。弾頭や誘導装置など内部も公開しました。射程3000キロ以上とされ、東アジア全域が攻撃可能。違憲の敵基地攻撃兵器です。

ウクライナで使用されている高機動ロケット砲システム（HIMARS）や携帯型ロケットランチャーの模型、各種弾丸なども展示され、さながら〝戦争見本市〟の様相でした。

最も注目が高かった展示は、日英イタリアによる「GCAP」（グローバル戦闘航空プログラム）です。空自のF2と欧州各国配備のユーロファイターの後継機を2035年をめざし共同開発する計画です。3カ国以外にも輸出を狙っており、関係者は「今後数十年にわたって続くプログラムで、巨大な経済権益をもたらす」と強調。日本から三菱重工、三菱電機、IHIが参加します。